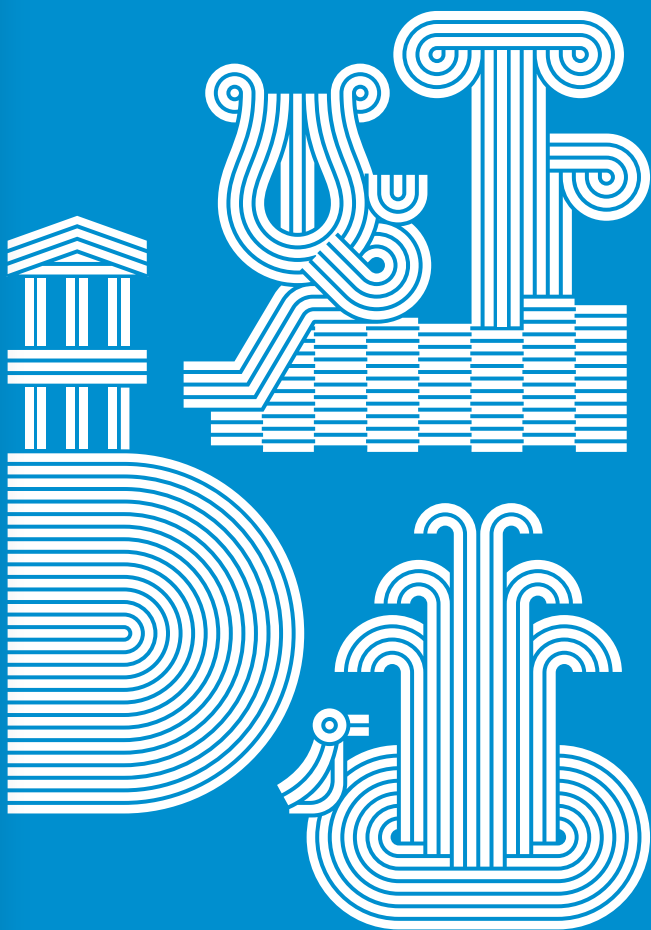




プロヴディフ

を知らしましょう





親愛なるお客様、

ヨーロッパで最古の「生きた」街、そして世界で最古の街の一つプロヴディフへようこそ！

笑顔と丘の街プロヴディフ！

ネベット・テペ丘からの素晴らしい眺めを楽しみながら、古代トラキア人の時代へ思いを馳せる旅ができる街です。

タイムマシンに乗って、ローマ時代にタイムスリップし、古代劇場やオデオン、壮大な古代フォーラムを訪れることができます。

民族復興の精神が脈打つ魔法のような旧市街には、美しい中庭と様々な物語を守り続ける家々が立ち並んでいます。

古代モザイクに触れて時間を忘れた後は、街で最も活気のあるカバナ地区で素晴らしい料理に舌鼓をうつというのはどうでしょう。

遊歩道を通って漕艇運河を訪れたり、マリツァ川沿いを散歩することもできます。

時を超え、色とりどりで生き生きとし、親しみやすく活気にあふれた街。

旅人が、生涯忘れることのできない心の中の景色を完成させる場所。それがプロヴディフです！

コスタディン・ディミトロフ
プロヴディフ市長

→プロヴディフ

七つの丘の街

「ここは自然の立地条件が最も素晴らしい都市の一つです。丘は角の形をしており、その上には家や庭が立ち並び、上り下りする曲がりくねった細い道が続いています。

橋や庭園、立ち並ぶ家々、川沿いにそびえる大きな木々。一丘の上から見下ろすその景色は世界で最も感動的な風景の一つなのです！」

1833年、アルフォンス・ド・ラマルティエヌ

「遠くから見るとトリモンティウムは壮麗で輝いていた...」

ロキウス、2世紀

→エウモルピア

トロイヤミケーネに匹敵する街

約8000年前の新石器時代には、人類文明の歴史において黄金のページを刻むべく、肥沃なこのトラキアの地に街の礎が築かれました。マリツァ川のほとりの7つの閃長岩の丘にあるこの場所は、神の祝福を受けているかのような素晴らしい立地条件でした。20世紀初頭に7つ目の丘、マルコヴォ・テペ丘が破壊されたため、現在丘は6つしかありません。

紀元前12世紀、三つの丘のうち北側に位置するネベット・テペ丘には古代トラキアの町が築かれ、エウモルピアと名付けられました。ポセイドンとキオナーの息子で、神話的王であり且つ音楽家、そして司祭であるエウモルポスにちなんで名づけられた名前です。

この丘で発見された古代の遺跡から、エウモルピアがトロイヤミケーネと同時代に存続した町であり、アテネ・ローマ・コンスタンティノーブルよりもはるかに古い町であることがわかります。

→ フィリッポポリス

トラキア属州の州都

ローマ帝国の支配下（2～4世紀）において、フィリッポポリスはトラキア州の州都となり、ラテン語でトリモンティウム（三つの丘）と呼ばれるようになりました。

この時代はその古代都市の発展において一種の黄金時代であり、市内に、7,000人ももの観客を収容できる劇場、オデオン（都市参事会の会場としても用いられた屋根付きの劇場）を備えた広大なフォロ、30,000人も収容できる大規模な競技場、ロドピ山地の斜面から湧き出る水を街に供給する全長約30kmの水道橋などの施設が建設されました。

考古学調査により、これらの壮大な建造物の印象的な遺跡が数多く発見されています。

「すべての街の中で最も大きく最も美しい町である。その美しさは遠くからでも輝き、すぐ近くには大きな川が流れている。」

サムサタのルキアノス、2世紀

古代ローマ劇場、1世紀



200平方メートルにも及び司教バシリカのモザイクの床一面に、多様な幾何学的模様、様々なシンボルや鳥などが見事に描かれています。

初期キリスト教バシリカの壮麗さ

キリスト教がフィリッポポリスに広まってきたのは、使徒時代とも呼ばれる紀元1世紀のころです。古代教会文献には、紀元前34年に、70人の使徒の一人である聖使徒エルムが町の初代司教に任命されたと記されています。

初期キリスト教時代（4～6世紀）には、フィリッポポリスに注目に値する優れた建造物が建設されました。ブルガリアの地で発見された最大のキリスト教寺院であるフィリッポポリス司教バシリカ大聖堂（「エписコパル・バシリカ」）や洗礼堂（バプティステリウム）を備えた小さいバシリカ教会（「スモール・バシリカ」）などです。特にフィリッポポリス司教バシリカ大聖堂は、重要な歴史的出来事とも関連しています。343年にここで東方（アリウス派）教会会議が開催されました。

この時代に建てられた聖堂や公共・民間建築物の床には豪華なモザイク装飾が施されていました。

→ オプス・ミクストゥム

初期ビザンティン 建築物

ユスティニアヌス大帝の時代である初期ビザンチン時代には、三つの丘を囲む城壁の壮大な改築が行われました。540年から550年にかけて、石と煉瓦を交互に積み重ねる「オプス・ミクストゥム」と呼ばれる構法で城壁が増築され、その一部は現在も残っています。

古代と民族復興期が見事に同居する旧市街の「ヴィトシャ通り」にある建築群では、要塞の城壁の一部が露出しており、一連の建物の基礎をなしているのが見えます。

古代プロヴディフはブルガリアの第16代の君主であるクルム汗によっても一時的に占領されたことがあります。恒久的にブルガリアの国家に組み込まれたのは、その孫であるマラミル汗の時代の836年です。

「フィリポポリスは大きく人口の多い都市で、またその立地も非常に便利であり、大陸の他のすべての都市の中で最も豊かな恩恵を受けている。」

ヨハネス・カンタクゼノス
ビザンチン時代の年代記作者

同年代のビザンティン年代記作者は、プロヴディフについて「ヘブロス川のほとりに位置し、非常に大きく、とても注目に値する都市である」と述べています。

→ ミリタリス街道

バルカン半島における 十字軍の街道

1096年から1189年にかけて、第一次、第二次、第三次十字軍の軍隊がブルガリアの地を通過しました。その時彼らは、ソフィア、プロヴディフ、エディルネを通過してコンスタンチノープルに至るバルカン半島の西北から東南へ斜めに進むミリタリス街道（Via Militaris）を利用しました。

ビザンティンの歴史家であるニケタス・コニアテスは、1189年にこの地にフィリポポリスの守護聖人と信じられた聖母マリアに捧げられた大きくて新しい教会が建てられたことを記しています。また、彼はその寺院の美しさに驚いたと述べています。

13世紀から14世紀にかけて、プロヴディフは何度も支配者を変えました。

その時代から、東の要塞門である象徴的なヒサル・カピヤ（要塞門の意味）が現代に至るまで保存されています。



→ フィリベ

オスマン・トルコの時代

1371年、プロヴディフはオスマン・トルコに占領され、1878年まで507年にわたり支配が続き、街はフィリベと呼ばれました。この時代に市内にプロヴディフ最古のイスラム寺院であるジュマヤ・モスクとイマレット・モスク、大規模なキャラバンサライ「クルシュム・ハン」、ベジステンと呼ばれる屋根付き市場、多数の浴場などが建てられました。浴場のうち「チフテ・ハمام」浴場（旧浴場）は現存しています。また、16-17世紀には、ウズン・チャルシヤ商業地や「カパナ」工芸・商業地区も形成されました。

ローマ競技場広場の西側にそびえる丘には、おそらく16世紀に建てられたとされる時計塔が立ち、これは東ヨーロッパにおいて最も古い時計塔の一つで、オスマン帝国内では最も古いものです。

「プロヴディフはとても大きい都市である。。。ヨーロッパ側のトルコ領にある十大都市の中で。。。プロヴディフはその中で最も美しい。プロヴディフは大きく豊かな都市である。。。商業の中心地であり、日に日にその豊かさを増している。神よ、この都市を栄えさせ給え！」

エヴリヤ・チェレビ、1651年

ジュマヤモスク



→ ブルガリア民族復興期

経済的及び精神的 繁栄の時代

「適切な都市計画や建築方法、そして町全体の様相を見ると、ここがブルガリアで最も美しい町の一つと言われるのも不思議ではありません。ここからブルガリアらしさが感じ始められます。また、この街の住民は非常に勤勉で、もてなしがよく、誠実なことで知られています。」

フランソワ・ブクヴィル、1790年

経済発展における重要な都市

19世紀に入ると、プロヴディフでは、精神的な面でも経済的な面でも本格的な復興が展開されました。プロヴディフの製造業者や商人たちは、自分の作った製品を西ヨーロッパや小アジア、またシリア、エジプト、アラビア、インドなどの市場へ輸出していました。陸路のほか、水量の多いマリツァ川を利用して、プロヴディフで筏に乗せられた物資はエーゲ海の河口まで運ばれました。マリツァ川が運航が可能であった記述は古代から残されており、当時、現在見本市会場のそばにある橋の東、マリツァ川の右岸には河港がありました。川の航行は水量が減り始めた20世紀初頭まで続きました。

この時代、プロヴディフでは起業や貿易仲介も発展し、町は民族復興期におけるブルガリア経済発展の主要な拠点の一つとなりました。1845年、プロヴディフ近郊にウィーンから輸入された機械を使ってトラキア地方初の織物工場ができました。1873年、オーストリアのヒルシュ男爵の企業によって建設された、イスタンブールを起点にプロヴディフを経由

する鉄道が開通し、それはプロヴディフおよびトラキア地方全体のさらなる発展のために重要な役割を果たしました。

教会建築

この数年間に、当時としては前例のない規模の教会建設が始まり、ほとんど廃墟となっていたプロヴディフの中世教会は民族復興期の建築・美術様式で完全に改装されました。

現存する「聖マリナ」府主教区教会・聖母大聖堂・聖コンスタンティン・エレナ教会・聖ディミタール教会・聖ネデリヤ教会などは、今でもその素晴らしい建築と豊かな内部装飾で訪問者を魅了し続けています。

教会独立のための戦い

1859年末、聖母教会でスラブ・ブルガリア語による初の礼拝が行われ、それ以来、プロヴディフとその教区に住んでいるブルガリア人は独立した教会共同体を形成しました。そして、1870年ブルガリアの教会が独立を遂げ、ブルガリアのエクサルプ教区が設立されました。

教育の中心地としてのプロヴディフ

1850年、著名なブルガリアの教育家であるナイデン・ゲロフとヨアキム・グルエフによって、ブルガリア初の教区学校「聖キリル・聖メトディウス」学校が設立されました。この学校ではスラブ語の文字を考案した偉大な兄弟である聖キリルと聖メトディウスの日がブルガリアで初めて祝われ、それは後に全スラブ民族の祝日として広まりました。

1869年、教区学校はブルガリア第一高等学校へと発展しました。

ブルガリアの教育の発展に特に貢献したのは、「ブルガリアのグーテンベルグ」と呼ばれる出版業者のフリスト・G・ダノフです。

プロヴディフ民族復興様式家屋

19世紀初頭、プロヴディフではブルガリア民族復興期を代表するプロヴディフ様式の見事な建築様式が発展しました。バロック様式のモチーフを取り入れたこの左右対称のデザインは何世紀にもわたって発展してきたブルガリアの民家建築様式の頂点とされています。中でも、特にキュムジオグル・ハウス、ゲオルゲアディ・ハウス、ヒンドリアン・ハウス、ネドコヴィッチ・ハウス、バラバノフ・ハウスが最も優れた例です。

プロヴディフの左右対称建築様式の代表例であるフヒンドリアン・ハウス





「プロヴディフでグルコ將軍を迎える」、画家：ニャグル・スタンチェフ

→ 1878年1月4日

プロヴディフの解放

1877年から1878年にかけてブルガリア人にとって解放戦争ともなった露土戦争が開始されました。そして、1878年1月4日、グルコ將軍率いるロシア軍はプロヴディフを解放しました。その次の数日の間、スレイマン・パシャの軍隊は決定的に撃破されました。解放戦争は1878年3月3日のサン・ステファノ条約締結によって終結し、統一国家のブルガリア公国が成立しました。首都には、解放されたばかりの国で最大の都市であったプロヴディフが指定されました。

しかし、1878年夏にヨーロッパ列強諸国はベルリンで会議を召集し、ブルガリアの領土は三分割されました。バルカン山脈とドナウ川との間の領土とソフィア地方はブルガリア公国となり、バルカン山脈以南には東ルメリア自治州が設置され、マケドニア地方と南トラキア地方はオスマン帝国に返還されました。

「フィリポポリスは、なかなか良い町である.....美しい建物が多くその大部分はヨーロッパ風のものだ。住民の多くはヨーロッパ風の服を着ており、フランス語も話せる。」

N. グレディアキン、ロシア将校

→ プロヴディフ

東ルメリア自治州の州都

1885年にブルガリア公国が東ルメリア自治州と統一されるまで、プロヴディフは7年間にわたり自治州の州都でした。当時プロヴディフはブルガリア最大の都市であり、その人口は33442人に達し、ブルガリア公国の首都ソフィアの人口をもはるかに上回っていました。ここでは、解放されたブルガリアの市民を助け支援するためにやってきた大勢のブルガリア人・外国人作家や知識人にとって魅力的な中心地となり、ブルガリアの偉大な作家イヴァン・ヴァゾフをはじめ、作家のペトコ・スラヴェイコフやザハリ・ストヤノフ、出版業者のフリスト・G. ダノフやドラガン・マンチョフなど有名人がプロヴディフで活躍していました。また、チェコのエンジニア兼建築家ヨシフ・シュニッテル、スイスの建築家ピエール・ポール・モンタニ、著名な造園家兼公園設計者であるスイス人のリュシエン・シェヴァラス、ブルガリア速記の父であるスロベニア人のアントン・ベゼンシェクもここに定住し、創造的な活動でプロヴディフを近代的なヨーロッパの都市へと押し上げるきっかけを作りました。

東ルメリア自治州の地方議会の建物 — 現在はプロヴディフ地方歴史博物館



→ブルガリアの統一

統一国家

1885年9月6日、2つに分割されていたブルガリアが統一され、その歴史的な出来事を記念して「統一」広場には現在壮大な記念碑が建っています。

1892年プロヴディフでは、ドイツやオーストリア、トルコなどの国々の国際的な参加を得てブルガリア初の農業産業博覧会が開催されました。その時、フランス人のウジェーヌ・ゴダールがブルガリアで初めて熱気球飛行を実演しました。博覧会のパビリオンは8ヘクタールの敷地に配置され、その間の空間はリュシエン・シェヴァラスにより美しい公園に整備されていました。

博覧会が終わった後でも、その公園は保存されさらに発展し、現在ではシメオン皇帝庭園として知られています。

プロヴディフのシメオン皇帝庭園には、著名なイタリアの彫刻家アルナルド・ゾッキにより造られた美しい「デーメーテル噴水」



第1回ブルガリア博覧会は75日間にわたって開催され、約16万8千人が訪れました

→ 成長の時代

産業の発展

博覧会の後継として、1937年にプロヴディフで第1回国際見本市が開催され、それにブルガリアから1070社、西ヨーロッパ8カ国と米国から385社が参加しました。

1880年代にはボモンティの蒸留所とフリック&スルツァーの醸造所が創業され、後にトマシヤンの「ズラテン・レフ（金のライオン）」、スタブリディス&マルダスの「オレル（鷲）」、リベノフの「スランツェ（太陽）」など、ブルガリア最初のタバコ工場も創立され、更にブルガリア初の工業会社も設立されました。そして、1895年に国内で最大級の商工会議所であるプロヴディフ商工会議所が設立されました。



プロヴディフの近代化

ブルヴディフの近代化や都市整備に特に貢献したのは19世紀にプロヴディフの新しい都市再生整備計画を立案した建築家のヨシフ・シュニッテルです。彼が完成させたプロジェクトには聖キリルス・聖メトディウスと聖アレクサンドル・ネフスキーに捧げられたブルガリア初の解放記念寺院（1884年）、プロヴディフの女子高校、「オロズ・デュ・バク」商業会館などがあげられます。ブルガリア公アレクサンドル1世にちなんで命名されたプロヴディフのメインストリートもその頃に建設されました。

解放後から20世紀半ば頃にかけてプロヴディフは重要な教育・文化の中心地としての地位を確立しました。当時ここで偉大なチェコ人画家であるヤロスラフ・ヴェシンとイヴァン・ムルクヴィチカが活躍し、後にプロヴディフは画家の街としても知られるようになりました。

長さ1750mもあるプロヴディフのメインストリートは現在ヨーロッパで最も長い歩行者専用区域になっています。立ち並んでいる建物はすべてネオクラシシズム、セセッション、ネオバロック、モダンなどの欧州建築様式で建てられています。



プロヴディフにあったクドグルの倉庫、「タバコの街」、1927年

1920年代から1930年代にかけて、町の発展に新たな勢いが吹き込まれました。タバコの製造を中心に、プロヴディフの中央駅近くの一帯に産業団地が形成され、現在その文化的・歴史的な建築群は「タバコの街」として知られています。

タバコ業界の大物だったディミタル・ペトロフ・クドグルは大幅な支援活動を行い、4000万レヴァ以上もの寄付をし、ブルガリアの歴史上最大の寄付者の一人となりました。「誠実に働き正当な労働で得た富は、善行や有益な事を行うために役立てるべきだ」と彼は言っていました。

1930年代のプロヴディフの発展には、当時の市長であったボジダール・ズドラヴコフも大きく貢献しました。彼は、町の姿を変えた大規模な再生整備プロジェクトを実行することに成功し、プロヴディフに新しい風を吹かせました。



プロヴディフのドンドゥコフ庭園にあるプロヴディフ在住のユダヤ人救済記念碑

→プロヴディフ

寛容の都市

第二次世界大戦中、ブルガリアの政府はブルガリア在住のユダヤ人をドイツに強制送還するよう求められました。ユダヤ人をブルガリア国民の一部として擁護すべきだという声は最初にプロヴディフから上がりました。プロヴディフの府主教キリルが先頭に立ち、市民が全員運動に加わりました。「自分の家に帰りなさい。誰一人もプロヴディフから連れ去られることはない。もしそうしなければならぬなら、私はユダヤ人を運ぶ列車の前の線路に横たわろう！」という彼の言葉はいまだに人々の心に残っています。

プロヴディフは寛容の都市としてよく知られています。ここでは、何世紀にもわたって多くの異なる宗教が共存してきました。現在プロヴディフには、ブルガリア人のほか、アルメニア人、ユダヤ人、トルコ人、ロマ、チェコ人、ロシア人、イタリヤ人、ギリシャ人なども住んでいます。

→プロヴディフ

現代の展望

プロヴディフには社会主義時代の際立った記念碑やインフラ整備が残っています。36ヘクタールの新しい敷地に国際見本市の会場となるフェア街が建設され、また1960年には新しい町のシンボルの1つとなるトンネルが旧市街の三つの丘を貫いて完成しました。

1957年には、ブナルジック丘の頂上に「アリョーシャ」として知られる壮大なソ連軍の記念碑が公開されました。プロヴディフの中央広場には印象的な「トリモンツィウム」ホテルが建設され、1974年には、国内で2番目の規模を誇り、最も古い図書館の一つである「イヴァン・ヴァゾフ」国立図書館が新しい建物に移転されました。図書館の蔵書数は1900000冊を超えるものです。

1980年代、カパナの職人・工芸地区の修復工事が始まり、2012年から同地区は、多くのギャラリーやアートリエ、スタジオ、居心地の良いカフェや小さな商店などが立ち並び創造産業の中心になっています。



プロヴディフ 名所TOP10



1. 建築・歴史保護区「古代プロヴディフ」

1956年、プロヴディフの歴史的な区域である旧市街の三つの丘は、保護区域に指定され、「古代プロヴディフ」と呼ばれるようになりました。ここには数多くの遺跡が保存されており、先史時代から、古代、中世、現代に至るまでプロヴディフの歴史をたどることができます。最も注目に値する建築遺産や考古学的遺跡は修復され、一般公開されています。現在、旧市街として知られる「古代プロヴディフ」区域は大規模で豊富な博物館となっています。

保護区域内には、ネベット・テペ遺跡群や古代劇場など貴重な遺産があります。ここでは、プロヴディフ最古の正教会や民族復興期様式の家屋、要塞門「ヒサル・カピア」の遺跡、昔ながらの街並みを残す街路、また民族博物館や歴史博物館、古い薬局「ヒポクラテス」、美術館などの展示をご覧いただけます。旧市街にはフリスト・G.ダノフの家やクリアンティ・ハウス、ヒンドリアン・ハウス、パラパノフ・ハウス、ネドヴィッチ・ハウスなど、多くのハウス・ミュージアムもあります。



2. ネベット・テペ遺跡

ネベット・テペ丘にある最古の集落跡は、新石器時代の中期、紀元前6千年紀にまで遡り、後にここで古代トラキア人の都市エウモルピアがつけられました。この場所では、聖域及び貴族の宮殿を囲む頑丈な城壁の遺跡が発見されています。特に興味深いのは、接着剤などを使用せず粗く加工された石のブロックで建てられた要塞の最も古い部分です。ネベット・テペ丘には、ヘレニズム期、ローマ時代、初期ビザンティン時代、中世の建造物が残っています。



3. 古代劇場

古代フィリポポリスの劇場は、三つの丘のうち、南側にあるジャンバズ・テペ丘とタクシム・テペ丘の間にある岩の多い窪地に位置し、1978年に発見されました。最近発見された碑銘からは、この劇場がドミティアヌス帝の治世の90年に偉大なトラキアの王であるティトゥス・フラウィウス・コティスによって建てられたものであることがわかります。劇場は6000人もを観客を収容できたとされており、現在は野外劇場として利用されています。



4. フォロ跡

1世紀末、フィリポポリスには、ローマのフォロをモデルに中央広場が建てられ、これはこれまでわが国で遺跡が発見された中最大のフォロです。ここは古代プロヴディフの行政、文化、宗教生活の中心でした。フォロはほぼ正方形のプランを持っており、その大きさは長さ143メートル、幅136メートルというものでした。三方面には商店が並んでおり、北側には公共の建物が建っていました。市議会の会場としても利用された屋根付きの劇場であるオデオンやフォロの西側の一部、列柱を配した入り口とそれ隣接する古代の通りも復元されています。



5. フィリポポリス司教バシリカ大聖堂

フィリポポリス司教バシリカ大聖堂は、ブルガリアで発見された最大の初期キリスト教寺院であり、またバルカン半島でも最も大きいバシリカ教会の一つです。半円形の後陣のある三廊式寺院で、長さは83メートル、幅は36メートルです。4世紀に建設され、その時に色彩豊かなモザイク装飾も施されたのですが、後に自然災害によってそのモザイクは破損されました。5世紀に約2000平方メートルに及ぶ新しいモザイク床がつけられ、一面様々な幾何学的模様や植物の模様、100種類以上の鳥などのモザイクで装飾されました。



6. 洗礼堂付きの小さいバシリカ

小さいバシリカは、半円形の後陣のある三廊式バシリカで、5-6世紀に建てられた初期キリスト教寺院です。内部の床は一面モザイクで覆われています。祭壇の前には、トラキア軍区司令官であり、475年に東ローマ帝国の対立皇帝となったフラウィウス・バシリスキスに捧げられた寄進碑文が残っています。堂内には、十字型の洗礼槽が設置された洗礼堂もあり、洗礼槽の周囲の床に、その当時典型的なキリスト教のシンボルであった鹿や鳩を描くモザイク画で装飾されています。



7. ローマ時代の競技場

競技場は、ハドリアヌス皇帝時代にタクシム・テペ丘とサハット・テペ丘との間の鞍部に建設され、長さ240メートル、幅50メートルで5万人も収容できる大規模なものでした。北側のアーチ型の部分は復元され、その観客席の下には競技場のトラックと外の通りをつなぐ入り口があります。フィリポポリスの外側の城壁の一部も発掘されています。この競技場では、古代世界各地から集まった選手たちがピューティア大祭、アレクサンドロス大祭、ケンドリソス大祭などの競技際において勝負を争いました。



8. 地方考古学博物館

地方考古学博物館は解放直後の1882年に設立され、国内で最も古い博物館の一つです。プロヴディフとその周辺から出土した、先史時代、古代、中世の遺物から成る博物館のコレクションはブルガリアで最も豊かなものの一つです。1949年に発見された世界的に有名なパナギュリシテ遺宝はここで初めて展示されました。博物館の常設展では、広大なオドリュサイ王国を支配した初期のトラキア王たちの財宝も含め、紀元前6千年紀から紀元14世紀に至るまで合計4500点もの文物などが陳列されています。



9. 地方民族博物館

民族博物館はかつてプロヴディフの豪商アルギル・クムジオグルの住まいだった邸宅にあり、要塞門のヒサル・カピアの近く、旧市街の最も美しい一角に位置しています。

その建物は、正確なポローションや特徴的な外観の姿から見ても、地形への見事な適応から見ても、プロヴディフのシンメトリー建築様式の素晴らしい典型例です。1847年に有名な大工ハジ・ゲオルギ・ハジスキによって建てられたこの家屋は、「サライ（宮殿）」とも呼ばれるように、ブルガリアにおいて最も規模が大きく最も代表的な民族復興期の家屋です。

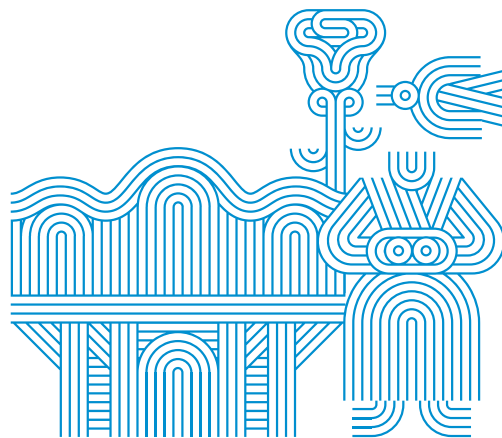
現在、ここにプロヴディフの地方民族博物館が置かれ、民族衣装、古い工芸品、生活用品、写真、絵画などを含むその豊富なコレクションは民族復興期のブルガリア人の伝統や生活様式や文化が紹介されています。



10. 聖コンスタンティン・エレナ教会

聖コンスタンティン・エレナ教会はプロヴディフにおいて最も古いキリスト教寺院で、要塞の東門ヒサル・カピアの傍の高台に建っています。

もともと304年にここで殺害された38人のプロヴディフの殉教者に捧げられました。19世紀には半壊していた聖堂が三廊式のバシリカ教会に再建されました。繊細なバロック様式の木彫りのイコノスタシスはウーンにあったイコノスタシスをモデルに作られましたが、第二次世界大戦中にウーンの原型が破壊されたため、今は唯一無二のものになっています。イコノスタシスにかかっているイコンは著名なブルガリアの画家ザハリ・ゾグラフィの手によるものです。



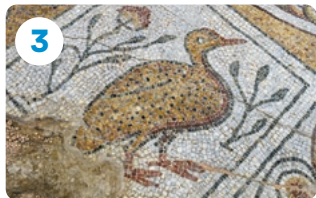
プロヴディフ ブルガリアまたは ヨーロッパで 第1位



1 プロヴディフは、ヨーロッパ最古の現存都市であり、世界最古の都市の一つでもあります。



2 2019年にプロヴディフはブルガリア初の欧州文化首都に指定された都市となりました。



3 プロヴディフの司教バシリカ大聖堂はブルガリアの地で最大の初期キリスト教寺院です。



4 サハット・テペ丘の時計塔（14世紀）はヨーロッパ最古の時計塔の一つです。



5 ブルガリア初の出版社は、1855年フリスト・G・ダノフによりプロヴディフで設立されました。



6 1856年5月11日 — 聖キリル・聖メトディオスの日の最初の祝賀。



7 プロヴディフでは1868年にブルガリア初の高校が設立されました。



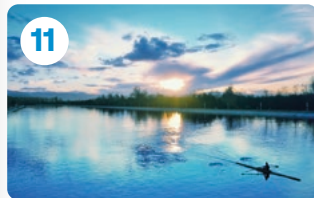
8 ドンドゥコフ庭園（1878年）はブルガリア最古の公園です。



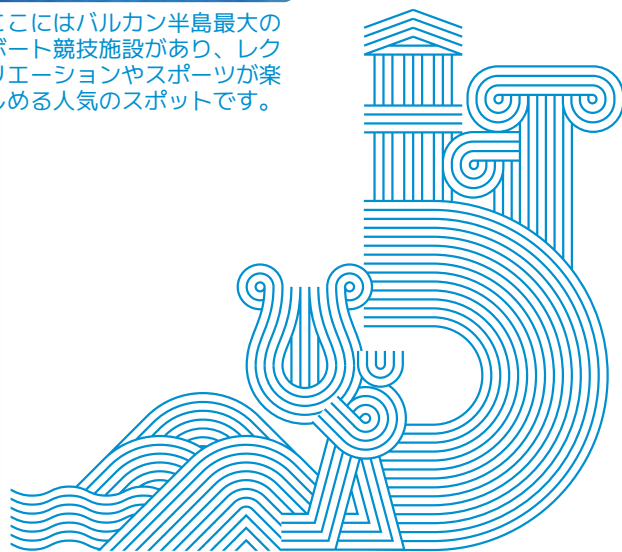
9 プロヴディフのメインストリートはヨーロッパで最も長い歩行者専用の通りです。長さは1750メートルです。



10 1881年、プロヴディフは劇団と劇場建物を持つ最初のブルガリアの都市となります。



11 ここにはバルカン半島最大のボート競技施設があり、レクリエーションやスポーツが楽しめる人気のスポットです。



1

プロヴディフはヨーロッパで現存する最古の都市であり、世界でも最も古い都市の一つです。

丘の上で人々の生活が営まれていた最も古い痕跡は新石器時代の紀元前6千年紀にまでさかのぼり、その時代からいくつかの集落跡が確認されています。最初の都市集落はネベット・テペ丘の上に建てられ、紀元前12世紀にそれを中心に古代都市エウモルピアが発展していきました。

2

2019年にプロヴディフはブルガリア初の欧州文化首都に指定された都市となりました。バルカン半島最大の野外ステージはフィリポポリスの古代劇場です。

「欧州文化月間」の開催から20年が経過した2019年にプロヴディフはイタリアのマテーラ市とともに欧州連合の最も権威のある文化的なイベントに参加しました。プロヴディフは、文化イベントのカレンダーが豊かな都市で、オペラフェスティバル「オレラ・オープン」、国際フォルクローレ・フェスティバルや秋の芸術サロンをはじめ、旧市街フェスティバル、「十字路の舞台」演劇祭など、国内外で有用なイベントやフェスティバルが数多く開催されます。

3

フィリポポリスの司教バシリカ大聖堂は、ブルガリアで発見された最大の初期キリスト教寺院であり、またバルカン半島でも最も大きいバシリカ教会の一つです。

三廊式に建てられたその壮大な聖堂の床は、一面様々な幾何学的模様や植物の模様、数多い鳥の画像などのモザイク画で覆われています。4世紀に施された最初のモザイク装飾が自然災害により破損されたため、5世紀にその上に新しいモザイク床がつけられました。修復後、2階建ての特別な建物の中で2層のモザイク床が保存され展示されています。

4

16世紀に建てられたプロヴディフの時計塔はオスマン帝国で建設された最古の時計塔であり、またヨーロッパにおいても最も古い時計塔の一つです。

それに関する最も古い記録は17世紀初頭に遡ります。最初の木造の塔は、古くも1578年から1611年にかけて丘の上に建てられたもので、その時計仕掛けはイタリア人の機械技師アントニオ・バルバジェラータによってつくられました。1812年ブラツィゴヴォ町の大工たちによって再建されました。この時計塔はブルガリア特有のユニークな建築様式を持っています。塔の一番上に機械式時計があり、それは今でも正確に時を刻んでいます。旧市街の三つの丘の西にある丘は、その塔にちなんで、その名前は「サハット・テペ」、すなわち「時計の丘」と呼ばれていました。今日では「ダノフ丘」として知られています。

5

1855年、「ブルガリアのグーテンベルク」と呼ばれたフリスト・G・ダノフによって、プロヴディフにブルガリア初の出版社が設立されました。

彼が最初に出版した本は「スタロプラニンチェ。1856年、閏年のカレンダー」でした。ダノフの出版社はブルガリア解放までの間、主要な文化機関であり、彼の書店はブルガリアの若い学習者や知識人にとって精神的な拠り所となっていました。この書店が「隠れた国民啓蒙省」と呼ばれていたのはただの偶然ではありません。ブルガリアの書物、教育、文化にダノフ氏は、自分の人生の65年を費やし1000冊以上もの出版物を捧げました。

6

1856年、プロヴディフで初めて5月11日の聖キリル・聖メトディウスの日の祝典が行われました。

この祝祭は、二人の兄弟の名を冠したブルガリア教区学校で誕生したもので、記念すべきイベントを立案したのはブルガリア民族復興期の教育家ナイデン・ゲロフでした。やがて5月11日はブルガリア全国民の祝日となり、今は全スラヴ世界において重要な記念日として祝賀されています。教皇ヨハネ・パウロ2世の在位中、特別な回勅により聖キリルと聖メトディウスはヌルシアの聖ベネディクトゥスと共にヨーロッパの共同守護聖人に認定されました。

7

1868年、ブルガリア初の高等学校である「**聖キリル・聖メトディウス**」高校が設立され、そのために特別に建てられた建物の中に置かれました。その建物は「**黄色い学校**」と名付けられました。

学校の建物は、一般教育に必要な条件を満たす新築の建物としてブルガリア初の物であり、また現在も本来の目的に使用されている唯一の古い公共建物です。大工のトドル・ダモフによって建てられ、頑丈で装飾も控えめですが、印象に残る外観を持つ建物です。現在、「黄色い学校」は音楽・舞踊・美術アカデミー所属施設になっております。

8

ドンドゥコフ庭園（シティガーデン）は、1878年、アレクサンドル・ドンドゥコフ・コルサコフ公の発案で造られたブルガリア最古の公園です。

ちょうどプロヴディフがサン・ステファノ条約締結直後のブルガリアの首都に選ばれた頃でした。この庭園を最初に設計したのは、スイス人の造園者リュシエン・シェヴァラスです。もともとオスマン皇帝アブデュルアズィズの庭師だった彼は、プロヴディフに定住し、ここで南国の花やフィカス、サボテン、羽状葉のヤシ、その他のエキゾチックな植物の栽培のための温室をつくりました。プロヴディフの人々は感謝の気持ちを込めて彼のことを「花と果物、植物相と果樹栽培の大臣」と呼んでいました。

9

長さ1750mもあるプロヴディフのメインストリートは現在ヨーロッパで最も長い歩行者専用区域で、中央広場から始まり、マリツァ川に達しています。

プロヴディフの主要な繁華街としてブルガリアの解放後にその建設が始まり、最初に建てられた住宅・商業建物は19世紀の建築様式を代表する新古典主義様式で建設されました。20世紀初頭から半ばにかけてこの区域で「モダン」様式とも呼ばれるセセッション様式の特徴を持つ新しい建物が数多く建てられ、現在ここでは古典主義建築やバロック様式、ロココ様式、セセッション様式、モダニズムなどの装飾や要素が混在する魅力的なデザインを楽しむことができます。

10

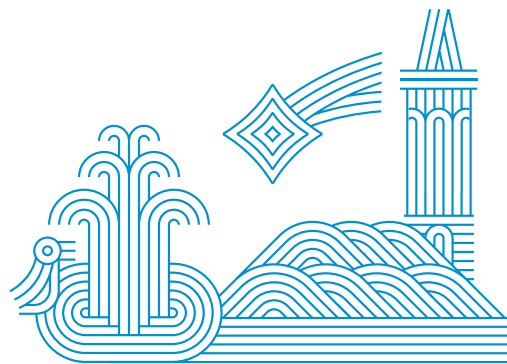
プロヴディフは、1881年からブルガリアで初めて劇場建物と専属劇団を持った都市です。ブルガリアにおける演劇のプロ化を促したのは作家のイヴァン・ヴァゾフです。

1881年12月8日、ダノフ印刷所の労働者協会は、出演したステファン・ペトコフ・ポプフの監督の下で「ルクセンブルグ」劇場にてドブリ・ヴォイニコフの「ストヤン・ヴォイヴォダ」とモリエールの「ル・バルビエの嫉妬」を上演しました。その二日後、歴史的な第13回地方議会で、情熱的な討論の結果、「移動劇団編成」のための75000グロシュの予算が投票され採決されました。このことについて、翌日の12月11日発行の「国民の声」新聞にはイヴァン・ヴァゾフはこのように記しています—「ブルガリア国立劇場の強固な基礎は築かれた」。

11

プロヴディフの漕艇運河はバルカン半島における最大規模のボートレース競技場です。

漕艇運河はマリツァ川に隣接し、その南側から休息に快適な「ハンティング・パーク」公園に囲まれています。ここでは、カヤック・カヌー世界選手権やカヤック・カヌー欧州選手権をはじめとして、多くの主要な国際スポーツイベントが開催されます。漕艇運河の周辺は、プロヴディフの市民や観光客にとってトレーニングやフィットネス、スポーツゲーム、釣り、レクリエーションなどが楽しめる人気の場所です。



プロヴディフ で外せない スポット・ アクティビティ



プロヴディフの博物館

プロヴディフは多種多様な博物館がある町です。中でも最も有名なのは、ユニークな展示品から成る豊富なコレクションを持つ考古学博物館、民族博物館、歴史博物館です。市立美術館には常設展示が6つ、展示ホールが5つあります。自然史博物館も注目を集めています。また、旧市街には合計16の展示館があります。



メインストリート散策

プロヴディフのメインストリートは、町の中心部にあり色彩豊かな生活が息づいている地域です。建物の大部分は多層構造になっており、様々なショップや飲食店が軒を連ねています。文化施設も多く、また市役所やジュマヤ・モスクの前に広場が広がっています。特別の魅力を持ち、訪れる者に安心感を与え、居心地の良い場所です。



カパナ地区散策

商人や職人の街として発展したカパナ地区は、現在、狭い路地が入り組んだ街並みと独創的な建築様式の建物で人々を魅了しています。数多くのフェスティバルや祝祭、展示会、コンサートなどが開催され、魅力的な場所になっています。小さなカフェやお菓子屋さん、レストランでは、ブルガリアやプロヴディフの伝統的な飲み物や料理を味わうことができます。



古い工芸の街を訪れてみましょう

ヒサル・カピア門からネベット・テペ丘の北側の斜面を下っていく、旧市街の「ストラムナ（Стръмна）」通りにあります。狭い石畳の通り沿いには、民族復興期の家々が立ち並び、その中に手織り工芸、陶芸、木彫りなどのブルガリア伝統工芸の名職人たちの工房があります。ここでプロヴディフ固有の民芸品やお土産を手に入れることもできます。



ブナルジック丘に登ってみましょう

標高234メートルのブナルジック丘は、7つの丘の中で2番目に高く、現在はきれいな公園になっています。絵のように美しい小道が頂上へ導いてくれ、そこには、プロヴディフ近郊で戦死したロシア兵を追悼し1881年に建てられた「ロシア記念碑」の大理石のピラミッドがそびえています。丘の頂点には「アリョーシャ」として知られるソ連兵士の記念像が建っており、ここから町の全景を見渡す壮大な景色が広がっています。



シメオン皇帝庭園を訪れてみましょう

中央広場とメインストリートに隣接しているシメオン皇帝庭園は、1892年に第1回プロヴディフ博覧会の公園として著名な公園設計者リュシエン・シェヴァラスによってつくられました。博覧会の終了後、市はその庭園を保存し拡大してプロヴディフの主要公園として整備しました。ここでは、何世紀もの歴史を持つエキゾチックな樹木の木陰の下で、噴水や美しい花々を楽しみながら庭園の路地を散策することができます。公園内には、ブルガリア民族復興期の著名な活動家や革命家の記念碑が点在しており、南の端にはかつて博覧会のために作られた池が保存されています。また国内で唯一の、音と色とりどりの光のイルミネーションによる音楽噴水ショーは人気を集めています。

観光情報センター

プロヴディフでの 滞在を 計画しましょう

無料の案内資料、
プロヴディフ観光マップ、各種情報：

 観光名所、博物館、
その他の観光スポットの紹介

 市内宿泊施設及び
飲食店の紹介

 都市内・都市間交通機関、
鉄道などの交通アクセスの案内

 近日開催予定のイベントの情報

 博物館やイベントの
チケット販売

住所1

ドクター・ストヤン・チョマコフ通り1（旧市街）

TEL.: +359 32 620 453

住所2

ライコ・ダスカロフ通り1（「ローマ競技場広場」）

TEL.: +359 32 620 229

SNSでは是非Visit Plovdiv
をフォローしてください。



visitplovdiv.com



著者：アレクサンダー・ピジェフ
© 2026年 プロヴディフ基礎自治体

